

令和3年（2021年）8月の大雨特定災害対策本部会議（第3回）
議事録

日時：令和3年8月15日10：30～11：14

場所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：【本部長】 防災担当大臣
【副本部長】 副大臣（防災担当）
大臣政務官（防災担当）
内閣官房 危機管理監
【本部員】 内閣府 政策統括官（防災担当）
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）
内閣府 男女共同参画局長
警察庁 警備局長
総務省 大臣官房長
(代理：大臣官房総務課長)
総務省 総合通信基盤局長
総務省 自治行政局公務員部長
(代理：自治行政局公務員部公務員課
応援派遣室長)
消防庁 次長
消防庁 審議官
財務省 大臣官房審議官（危機管理担当）
(代理：大臣官房総合政策課政策推進室長)
文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部長
(代理：大臣官房文教施設企画・防災部
参事官（施設防災担当）付
災害対策企画官)
厚生労働省 大臣官房危機管理・医務技術総括審議官
農林水産省 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官
経済産業省 大臣官房技術総括・保安審議官
国土交通省 水管理・国土保全局長
国土交通省 大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官
国土地理院 参事官
(代理：総括測量・防災官)
気象庁 気象防災監
海上保安庁 海上保安監

環境省
防衛省

環境再生・資源循環局長
統合幕僚監部総括官

1. 開会（内閣府政策統括官（防災担当）により議事次第に沿って議事進行）

2. 被害状況等の報告について

<気象庁>

資料に沿って説明

- ・九州地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となっている。今日の6時10分に佐賀県、長崎県、福岡県、広島県に発表していた大雨特別警報については、大雨警報に切り替えたが、広い範囲で土砂災害警戒情報、大雨、洪水警報が発表されている状況である。
- ・引き続き警戒が必要な状況であるので、警報への切り替えのタイミングにおいて、水管理・国土保全局と気象庁で合同の記者会見を開催し、厳重な警戒を引き続き呼び掛けているところ。
- ・17日にかけて、今後も西日本から東日本は非常に激しい雨が降り、北日本を含めて大雨となるところがある見込みである。
- ・前線は20日頃にかけて本州付近に停滞するため、西日本を中心に雨量がさらに増えるおそれがある。
- ・日本を横断するような形で、前線が停滞している。前線は昨夜から南下し、東京も前線の北側に入り、北東の風の中で幾分肌寒い状況となっている。今夜から明日にかけて、短い時間であるが、若干小康状態の時間帯もあるのではないかと思っている。
- ・今後、西から前線の活動が活発となり、北上する予想となっているので、20日にかけて注意が必要である。
- ・11日の降り始めからの総雨量については、九州北部地方では1000mmを超えて、その他の地域でも広い範囲で500mmを超えるような記録的な降水となっているところ。
- ・明日の朝までの24時間の予想される降水量は、昨日までのような200mm、300mmを予想する状況にはないが、地盤が緩んだ状態であるので、少しの雨でも注意、警戒が必要な状況は続くと思込んでいる。
- ・その後の24時間の予想降水量については、再び、西日本で再び前線の活動が活発になり、九州地方を中心に、雨量が増えてくる予想をしている。
- ・これまでの大雨によって、地盤が緩んでいるところや氾濫が発生しているところがあるので、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒い

ただき、竜巻等の激しい突風や落雷にも注意をいただきたい。

- ・ 8時までの24時間の降水量を示しているが、記録を更新した箇所が東日本にあるところから、次第に強い雨が東に移ってきたことが見て取れる。
- ・ 降り始めからの総降水量を示しているが、佐賀県の嬉野で1000mmを超えている状況で、広い範囲でかなりの量となっているところ。
- ・ 今後1週間の見通しを天気図で示している。前線の雨域がかかる状況が続くが、雨域は次第に日本全体から西日本中心となり、その他の地域は太平洋高気圧に覆われてくる見込みである。20日までは、西日本において雨が長引くため、引き続き、注意、警戒が必要。
- ・ 気象庁は引き続き、情報発信を適宜行い、各地の気象台からJETTの派遣やホットライン等を通じ、地域の防災を支えていきたい。

3. 被害状況及び各省庁の対応状況等について

<内閣府政策統括官（防災担当）>

- ・ 人的被害は死者1名、調査中死体3名、行方不明3名となっている。
- ・ 建物の被害は記載のとおりだが、これから雨が降り続き、さらに被害が増えるおそれがある。
- ・ 各省庁の対応としては、部隊、リエゾンの派遣など対応をとって頂いており、ヘリ、航空機、巡視船艇など手配していただいている。
- ・ これまでに、災害救助法の適用が4県、7市4町で行われている。
- ・ 内閣府としては、本日朝、審議官をヘッドとする調査チームを佐賀県に派遣した。
- ・ 河川については、直轄3河川を含む12水系18河川で氾濫が発生した。
- ・ 本日、長野県岡谷市において土石流災害の報告があった。8名が土石流に巻き込まれ、うち3名が心肺停止、5名が救助中とのこと。
- ・ ライフラインは、電力は約2,880戸が停電、ガスは678戸に供給支障が生じている。水道は約1,066戸で断水、通信はNTTドコモ、KDDIに一部エリアで支障が発生している。佐賀県武雄市で大規模な内水被害が生じている。水道等のインフラについてはさらに確認をお願いしたい。
- ・ 交通機関は、直轄国道6路線10区間等で通行止め。鉄道7事業者9路線で施設の被害が生じサービスが止まっている状況。
- ・ 避難状況は、全国で昨日の約6,000名からかなり増えており、約14,400人が避難している。キャパシティを超えているところはない。コロナにも配慮した避難所の運営がされている。

<警察庁>

資料に沿って説明

- ・土砂災害現場等における救助活動、行方不明者の捜索を行っているところ。
- ・これまで、佐賀県、福岡県を中心に 127 名を救助している。特に冠水で動けなくなっていた高齢者の方々への救助が中心である。
- ・ヘリは 35 機を運用している。昨日は佐賀県へ飛ばし、本日は被災 4 県と長崎県へ飛ばして、情報収集をしている。
- ・近畿の機動隊 120 名が福岡で待機している。今後の状態に応じて捜索活動に従事するよう、万全を期してまいりたい。

<消防庁>

資料に沿って説明

- ・119 番通報の状況については、通常通りとなっているところが多く、佐賀県杵藤地区広域市町村圏組合消防本部も通常通りとなっている。
- ・長崎県雲仙市小浜町での住家被害については、引き続き救出活動中。
- ・熊本県人吉市の球磨川で 1 人が流され行方不明となっているが、捜索活動中。
- ・長野県岡谷市の土砂崩れについては、救出済み。
- ・福岡県添田町の土砂崩れについては、現場に医師がおり、女性の方が左足首の骨折の可能性がある。現在、重機を活用して救助活動中だが、時間がかかる見込み。
- ・武雄市の住家浸水の屋根に取り残された 6 名については、全てヘリコプターやボートで救出済み。
- ・武雄市の橋が冠水し 1 名孤立したが、ヘリコプターで救出済み。
- ・神埼市の土砂崩れで住家 2 棟が全壊、1 棟半壊したが、救出済み。
- ・長崎県西海市で 2 名転落し、救出したが、お亡くなりになられている。
- ・東広島市の 80 歳の男性が、田んぼの水を見に行っ行って行方不明になったと通報があり、現在、活動中。
- ・今朝のNHKの速報ニュースで報道されたが、成田市で土砂崩れがあった。現在のところ 119 番通報はなく、消防本部の情報だと、人的被害もなさそうということであるが、現在、消防隊を現地に向かわせて状況の確認をしているところ。
- ・ヘリコプターについては、現在、広島県、佐賀県、福岡市、長崎県の 4 機が情報収集活動を行っているところ。

<海上保安庁>

資料に沿って説明

- ・有明海は若干雨が止んでいるようだが、引き続き、九州西方には巡視船、特に

- ヘリコプターを積んだ巡視船も含めて配備を継続したい。
- ・昨日午前中、鈴張川で車が川に落ちて流されたという情報があったが、乗っていたと思われる方を宮島沖、河口から8キロくらい流されたところで揚収した。
 - ・今日の午前中から、ヘリコプターによる佐賀平野及び広島県周辺の救助要請の確認を行っているところ。今のところ、新たな救助要請等には接していない。

<防衛省>

資料に沿って説明

- ・自衛隊の体制としては、引き続き連絡員を自治体等に派遣するとともに、初動対処部隊の要員を待機させ、厳重な警戒態勢をとっているところ。
- ・13日に発生した長崎県雲仙市の土砂崩れに関して、本日は40名態勢、重機1両、救助犬3頭を投入し、警察・消防と連携して救助活動を実施しているところ。
- ・六角川氾濫の関係では、昨日、佐賀県知事から災害派遣要請があり、これを受けて救助活動を実施しているところ。昨日は人員150名、ボート24隻を使い、武雄市で95名、大町町で77名、合計172名を救助したところ。本日も人員260名、ボート35隻により救助活動を実施しているところ。

<国土交通省>

- ・六角川の浸水域は5800haと広域に及んでいる。その内、武雄市から旧北方町にかけての400haは、浸水深が50cm以上の被害が出ている。2年前の油流出の範囲よりは狭いものの、浸水被害が出ている。
- ・2年前より相当多い雨が降って河川の水位が上がったが、堤防は決壊せず、溢水や越水も限られた状況で、持ちこたえている状況である。
- ・(国土地理院による補足説明) 北方地区の住宅街における浸水推定図を作成しており、一番深いところで3m程度の浸水深、面積としては4~5km²程度の範囲の広がりを持っているとの解析となった。六角川の南側についても、今朝の空撮画像などの情報を活用しながら更新する予定。
- ・現在、排水作業を行っている。六角川の水位がかなり下がってきているので、六角川へ強制的に排水をし、さらに水位が下がれば水門を開けて自然排水をする予定。そのため、浸水が浅い区域は今日中に排水し、深い区域でも、雨が降らなければ明日の夕方までには排水ができる見込みである。また、順天堂病院が、浸水によりアクセスが難しい状況にあり、早期の対応ができるように、排水作業を早期に進めていく。
- ・浸水区域の救助には、警察、消防、防衛省、海保に協力頂いている。

- ・全国の河川、土砂災害の状況については、長野県岡谷市で土砂崩れが起こったように、災害の場所が東へずれてきている。8人が巻き込まれ、3人が心肺停止、5人が救助済みであるが、どのように土砂が崩落したか、詳細については確認中である。
- ・この地域は土砂災害警戒区域の指定がなされ、住民にも危ないことを周知している区域である。また、気象庁と合同で、長野県から昨日の13時25分に土砂災害警戒情報を発表していた。新たな避難情報では、土砂災害警戒情報に基づいて避難指示を出すことが基本となるが、岡谷市では17時20分に高齢者等避難が出ていたが避難指示は出ていなかった。气象台、県ともにホットラインを通じて連絡は行っている。
- ・上空からの写真を見ると、土砂崩れが発生した場所のすぐ上流側に中央道が走っているように見えるが、中央道には被害がない。
- ・鉄道関係については、7事業社9路線10箇所被害が確認されている。九州のみならず、長野や岐阜、静岡でも被害が出ており、鉄道被害も東に広がりつつある状況である。なお、引き続き現地を確認中であり、この後さらに被害の確認が増えていくかもしれない。
- ・運休している鉄道は、27事業社98路線だが、今後の天候の様子で拡大の可能性もある。
- ・航空について、人的・物的被害は現時点では確認されていない。昨日は全国で合計30便欠航していたが、本日は現時点で欠航の予定がない。ただし、天候次第で条件付き運行や自主運休の可能性もある。また、昨日、運行を休止していた佐賀空港のアクセスバスは、本日運行再開している。
- ・海（旅客船）については、27航路が運休している。
- ・バスについては、高速バス247路線、路線バス113路線が運休しており、これも天候の状況を見つつ判断していく予定。

<総務省>

資料に沿って説明

- ・通信関係の被害状況については、携帯電話については、NTTドコモは福岡県朝倉市、八女市、東峰村の一部地域において支障が出ており、現在復旧対応を行っているところ。
- ・KDDIについては、広島県広島市安佐北区及び安芸高田市、島根県江津市の一部地域において支障が出ているところ。広島県については、昨日から車載型基地局の出動等により復旧作業の実施をしており、支障エリアについては、昨日より相当程度縮小している。全てのエリア解消には至っていないが、引き続き復旧対応を行っているところ。

- ・なお、NTTドコモ、KDDIいずれも役場エリアの支障はないところ。
- ・固定電話については、NTTコミュニケーションズの専用線サービスにおいて、33回線に支障が出ているところ。
- ・災害対策用移動通信機器の貸与については、自衛隊（西部方面隊）に対し、NTTドコモより携帯電話やタブレットの追加、KDDIよりスマホ、衛星携帯の貸与を実施。
- ・引き続き被害状況等の把握に努め、各事業者と連携し、早期の復旧に向けた対応を行ってまいります。

<厚生労働省>

資料に沿って説明

- ・医療施設の被害状況については、現段階では、佐賀県で2か所、広島県で1か所、あわせて3つの病院で浸水等の被害を確認している。いずれも入院機能は維持されている。
- ・特に佐賀県では、順天堂病院において、浸水、ポンプ故障による断水、その他、周辺道路の冠水の被害が確認されているが、入院機能は維持されている。
- ・病院に確認したところ、物資の供給を含め、支援の要請は今のところない。詳細は本日DMATが入ってアセスメントをする。
- ・DMATは東京都1隊、広島県3隊、佐賀県2隊の合計6隊が活動中である。
- ・水道の被害状況については、現在、長野県、広島県、山口県、長崎県、熊本県の9事業者において水道管の破損等により1066戸が断水中である。引き続き情報収集をしていく。
- ・昨日、熊本県八代生活環境事務組合の管内で約1万戸余りが水の濁りなどの水質悪化による断水が発生していたが、こちらは解消している。
- ・社会福祉施設関係については、高齢者福祉関係の被害について、佐賀県の2つの有料老人ホーム2箇所でも床下浸水の被害、広島市の特別養護老人ホームでも床上浸水が発生している。いずれも人的被害はない。

(質疑)

<国土交通省>

- ・今後の心配事についてご報告申し上げます。九州地方など、雨が小康状態になったこともあり、「避難所から自宅に戻りたい」方が増えてくるかもしれない。
- ・しかし、明日から雨が強まるとの予想があるなか、場合によっては再度の避難をして頂くことになり、自治体のオペレーションも大変な状況となる。
- ・国交省・気象台と都道府県との間で、土砂災害警戒情報が適切に運用されるよう助言するが、科学的根拠に基づく観点と社会性を考慮する観点のなかで、解

除のタイミング難しくなることも想定される。すなわち、土砂災害警戒情報の基準を下回ったことで解除すると、住民の皆様が自宅に帰られ、その後の雨により危険な状況となった場合に、再び避難所に行くことができないなど、市町村にとってのオペレーションが難しくなってくるのが想定される。

- ・引き続き、どこで災害が起きるかわからないという状況が続くので、政府として市町村を支援するためにも、国交省と気象台の記者会見の中で、しっかりと報道機関にも伝えるよう取り組んでいく。政府関係者の皆様も、自治体のサポートをお願い頂きたい。

<国土交通省>

- ・今回、避難所への避難の長期化が懸念される。支援物資等、自治体でオペレーションしていると思うが、物流部門とも連携しながら情報を集めつつ、内閣府とも情報を共有させていただきながら、避難されている方々の生活の支援にもしっかりと取り組んでいきたい。

<棚橋特定災害対策本部長>

- ・まず、関係者の皆様方のご努力に心から敬意を表す。
- ・特に気象庁の皆様方におかれては、まさに不眠不休の思いで適時適切に情報を提供いただき、また、対応部隊の派遣など警察、消防、防衛省自衛隊、海上保安庁、国交省、総務省からも適時適切に現地に対応していただき、心から敬意を表し、感謝申し上げます。
- ・内閣府としても、9時15分に現地に調査チームを派遣したが、今後もさらなる危険が継続する可能性が高いのでよろしく願います。
- ・国交省水局ではダムの事前放流等をしていただいた。また、交通関係も含めて、電力、ガス、水道、通信等のライフラインについても、国交省を中心に、経産省、厚生労働省、総務省の皆様方に、適時適切に対応していただき感謝。繰り返しになるが、今後も大雨が継続していく可能性が高いのでよろしく願います。
- ・避難が長期化する可能性もあるので、避難所におけるコロナ対策、女性視点の避難の観点からも、それぞれよろしく願います。

(報道関係者入室)

4. 棚橋特定災害対策本部長発言

<棚橋特定災害対策本部長>

- ・今回の大雨により、今朝8時時点で、お亡くなりになられた方が1名、行方不明者3名などの人的被害が報告されている。また、住家被害も報告されている。
- ・亡くなられた方に心からお悔やみを申し上げますと同時に、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。
- ・先ほど9時15分に、佐賀県庁に向けて内閣府の調査チームを派遣したが、関係省庁においても、部隊派遣等対応しているところ。また、事前の減災のために、それぞれご努力をいただいているところであるが、本部員の皆様方におかれては、引き続き、地方自治体や関係機関と緊密に連携し、被害状況を迅速に把握するとともに、二次災害に十分注意しながら、人命第一の災害応急対策と早期のライフラインの復旧に、全力で取り組んでいただくようお願い申し上げます。
- ・佐賀県、長崎県、福岡県、広島県に発表されていた大雨特別警報は大雨警報に切り替えられたが、このほかにも、これまでの大雨により被害の危険性が切迫する地域が、今申し上げた4県に加えて多数ある状況。
- ・また、これから明後日にかけて西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、その後も雨が続く見込み。予断をまったく許さない状況が続いている。
- ・引き続き、万全の体制を確保し、人命を第一に、先手先手で避難支援等の事前対策に取り組むようお願い申し上げます。
- ・地方自治体の首長の皆様方におかれては、大変ご労苦をおかけするが、空振りを恐れずに、人命第一の観点から、躊躇なく避難指示や緊急安全確保等の避難情報を適切に出して頂くようお願い申し上げます。また、適切な避難の継続についても、心掛けて頂くようお願い申し上げます。
- ・特に、雨が止んだ地域においても、これまでに降った雨により、河川の氾濫や土砂災害が発生するおそれが十分にある。国民の皆様方におかれましては、お住まいの地域のハザードマップを改めて確認するとともに、避難情報や気象情報に特に注意をして頂くようお願い申し上げます。
- ・繰り返しとなるが、これから明後日にかけて、西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、その後も雨が続く見込みである。国民の皆様方におかれましては、予断を許さない状況が続いており、お住まいの地域のハザードマップを改めて確認するとともに、避難情報や気象情報に特に注意して頂くようお願い申し上げます。
- ・少しでも危険を感じたら躊躇なく避難する、あるいは避難を継続する、早め早めに、命を守る行動をとっていただくよう、強くお願い申し上げます。

(報道関係者退室)

5. 閉会